

目次

- 1) 講師一覧表
- 2) 通信学習実施計画書
- 3) シラバス
- 4) 学則
- 5) 研修スケジュール
- 6) 研修施設・設備
- 7) 修了評価方法・評価者・再履修等の基準
- 8) 年間実施計画書
- 9) 法人財務情報

講師一覽表

講師一覧表

講師氏名	担当 科目番号、科目名／項目番号、項目名	資格(取得年月)	修了評価 担当の有無
		略歴(経験年数)	
		現在の職業(経験年数)	
岡島 正幸	(1) 職務の理解／全項目 (2) 介護における尊厳の保持・自立支援／①② (3) 介護の基本／全項目 (4) 介護・福祉サービス理解と医療の連携／全項目 (5) 介護におけるコミュニケーション技術／全項目 (6) 老化の理解／全項目 (7) 認知症の理解／全項目 (9) こころとからだのしくみと生活支援技術／全項目 (10) 振り返り／全項目 修了評価	介護福祉士(平成19年5月) 特別養護老人ホーム ・介護職員(9年6カ月) 通所介護 ・介護職員(7年2カ月) 特別養護老人ホーム ・介護職員(7年7カ月)	有
阿河 大介	(1) 職務の理解／全項目 (2) 介護における尊厳の保持・自立支援／①② (3) 介護の基本／全項目 (4) 介護・福祉サービス理解と医療の連携／全項目 (5) 介護におけるコミュニケーション技術／全項目 (6) 老化の理解／全項目 (7) 認知症の理解／全項目 (9) こころとからだのしくみと生活支援技術／全項目 (10) 振り返り／全項目 修了評価	介護福祉士(平成24年5月) 特別養護老人ホーム ・介助員(2年1カ月) 訪問介護 ・介護職員(9カ月) 通所介護 ・介護職員(2年5カ月) 特別養護老人ホーム ・介護職員(7年8カ月)	有
江田 雅晴	(1) 職務の理解／全項目 (2) 介護における尊厳の保持・自立支援／①② (3) 介護の基本／全項目 (4) 介護・福祉サービス理解と医療の連携／全項目 (5) 介護におけるコミュニケーション技術／全項目 (6) 老化の理解／全項目 (7) 認知症の理解／全項目 (9) こころとからだのしくみと生活支援技術／全項目 (10) 振り返り／全項目 修了評価	介護福祉士(平成15年3月) 通所介護 ・介護職員(7年6カ月) 救護施設 ・介護職員(9カ月) 特別養護老人ホーム ・介護職員(8年) ・管理者(6カ月)	有
山本 郁子	(2) 介護における尊厳の保持・自立支援／①② (3) 介護の基本／全項目 (4) 介護・福祉サービス理解と医療の連携／全項目 (9) こころとからだのしくみと生活支援技術／⑫	介護支援専門員(平成21年6月) 特別養護老人ホーム ・介護職員(6年11カ月) 居宅介護支援事業所 ・介護支援専門員(11カ月) 特別養護老人ホーム ・介護支援専門員(8年5カ月)	無

宮下 泰彦	(2) 介護における尊厳の保持・自立支援／③	弁護士（平成20年12月） 法律事務所 ・弁護士（11年8カ月） 法律事務所 ・弁護士（11年8カ月）	無
松井 歩美	(1) 職務の理解／全項目 (2) 介護における尊厳の保持・自立支援／①② (3) 介護の基本／全項目 (4) 介護・福祉サービス理解と医療の連携／全項目 (5) 介護におけるコミュニケーション技術／全項目 (6) 老化の理解／全項目 (7) 認知症の理解／全項目 (9) こころとからだのしくみと生活支援技術／全項目 (10) 振り返り／全項目 修了評価	介護福祉士（平成26年5月） 特別養護老人ホーム ・介護職員（7年6カ月） 特別養護老人ホーム ・介護職員（7年6カ月）	有
豊久 喬之	(1) 職務の理解／全項目 (2) 介護における尊厳の保持・自立支援／①② (3) 介護の基本／全項目 (4) 介護・福祉サービス理解と医療の連携／全項目 (5) 介護におけるコミュニケーション技術／全項目 (6) 老化の理解／全項目 (7) 認知症の理解／全項目 (9) こころとからだのしくみと生活支援技術／全項目 (10) 振り返り／全項目 修了評価	介護福祉士（平成25年4月） 特別養護老人ホーム ・介護職員（6年6カ月） 特別養護老人ホーム ・介護職員（6年6カ月）	有
魚谷 正美	(1) 職務の理解／全項目 (2) 介護における尊厳の保持・自立支援／①② (3) 介護の基本／全項目 (4) 介護・福祉サービス理解と医療の連携／全項目 (5) 介護におけるコミュニケーション技術／全項目 (6) 老化の理解／全項目 (7) 認知症の理解／全項目 (9) こころとからだのしくみと生活支援技術／全項目 (10) 振り返り／全項目 修了評価	介護福祉士（平成19年4月） 訪問介護 ・介護職員（5年9カ月） 訪問介護管理者 ・介護職員（13年11カ月）	有
濱田 雅樹	(2) 介護における尊厳の保持・自立支援／①② (3) 介護の基本／全項目 (4) 介護・福祉サービス理解と医療の連携／全項目 (5) 介護におけるコミュニケーション技術／全項目 (6) 老化の理解／全項目 (7) 認知症の理解／全項目 (8) 障害の理解／全項目 (9) こころとからだのしくみと生活支援技術／①②③④⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭ 修了評価	看護師（平成6年4月） 通所介護 ・看護職員（3年9カ月） 介護付き有料老人ホーム ・看護職員（15年4カ月） 有料職業紹介事業所 ・営業（2カ月）	有

永井 康弘	(1) 職務の理解／全項目 (2) 介護における尊厳の保持・自立支援／①② (3) 介護の基本／全項目 (4) 介護・福祉サービス理解と医療の連携／全項目 (5) 介護におけるコミュニケーション技術／全項目 (6) 老化の理解／全項目 (7) 認知症の理解／全項目 (9) こころとからだのしくみと生活支援技術／全項目 (10) 振り返り／全項目 修了評価	介護福祉士（平成26年4月）	有
		住宅型有料老人ホーム ・介護職員（1年10カ月） 短期入所生活介護施設 ・介護職員（8年5カ月）	
岡田 正宣	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術／⑤	福祉住環境コーディネーター2級	無
		福祉用具貸与事業所 ・福祉用具専門相談員（3年6か月） 福祉用具貸与事業所 ・福祉用具専門相談員（8年3カ月）	
嶋浦 聖純	(1) 職務の理解／全項目 (2) 介護における尊厳の保持・自立支援／①② (3) 介護の基本／全項目 (4) 介護・福祉サービス理解と医療の連携／全項目 (5) 介護におけるコミュニケーション技術／全項目 (6) 老化の理解／全項目 (7) 認知症の理解／全項目 (9) こころとからだのしくみと生活支援技術／全項目 (10) 振り返り／全項目 修了評価	介護福祉士（平成27年3月）	有
		特別養護老人ホーム ・介護職員（5年6カ月） 特別養護老人ホーム ・介護職員（5年6カ月）	
阿曾 枝実子	(2) 介護における尊厳の保持・自立支援／①② (3) 介護の基本／全項目 (4) 介護・福祉サービス理解と医療の連携／全項目 (5) 介護におけるコミュニケーション技術／全項目 (6) 老化の理解／全項目 (7) 認知症の理解／全項目 (8) 障害の理解／全項目 (9) こころとからだのしくみと生活支援技術／①②③④⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭ 修了評価	看護師（平成13年4月）	有
		病院 ・看護職員（10年） 病院 ・看護職員（2年） 特別養護老人ホーム ・看護職員（5年6カ月）	
成田 雅一	(1) 職務の理解／全項目 (2) 介護における尊厳の保持・自立支援／①② (3) 介護の基本／全項目 (4) 介護・福祉サービス理解と医療の連携／全項目 (5) 介護におけるコミュニケーション技術／全項目 (6) 老化の理解／全項目 (7) 認知症の理解／全項目 (9) こころとからだのしくみと生活支援技術／全項目 (10) 振り返り／全項目 修了評価	介護福祉士（平成29年4月）	有
		短期入所介護施設 ・介護職員（9年3カ月） 福祉用具貸与事業所 ・福祉用具専門相談員（2か月）	

通信学習実施計画書

(別添2-10)

通信学習実施計画書

1 講義を通信の方法によって行う地域

大阪府全域

2 添削指導の方法

自宅学習期間の質問方法

質問は電話またはファックス、メールにて受け付ける。

電話番号 06-6776-7667

ファックス番号 06-6776-7678

メールアドレス m.kameda@fan-ction.com

添削担当講師：魚谷 正美、阿河 大介、阿曾 枝実子

3 科目別通信学習時間

科目番号・科目名	通信学習時間	通信形式で実施できる上限時間 (別紙3より)
(2) 介護における尊厳の保持・自立支援	5時間	5時間
(3) 介護の基本	3時間	3時間
(4) 介護・福祉サービスの理解と医療の連携	7.5時間	7.5時間
(5) 介護におけるコミュニケーション技術	3時間	3時間
(6) 老化の理解	3時間	3時間
(7) 認知症の理解	3時間	3時間
(8) 障がいの理解	1.5時間	1.5時間
(9) こころとからだのしくみと生活支援技術	12時間	12時間

4 通信学習課題配布・提出標準日程

添削課題は一括して開講式にて配布する。

開講式より10日以上あけた第3回目の研修日より、毎週1科目ごとに提出するように期日を定める。

5 通信学習課題

- ① 課題種類枚数 1種類
- ② 出題形式 択一形式
- ③ 出題数
 - 「介護における尊厳の保持・自立支援」22問
 - 「介護の基本」27問
 - 「介護・福祉サービスの理解と医療の連携」39問
 - 「介護におけるコミュニケーション技術」27問
 - 「老化の理解」32問
 - 「認知症の理解」27問
 - 「障害の理解」33問
 - 「こころとからだのしくみと生活支援技術」125問

6 評価基準

科目ごとに、正解率6割以上を合格とする。

基準を満たさなかった場合は、再評価を実施するため、別途添削課題を配布する。

再提出期限は研修修了日の二週間前までとする。

7 通信添削業務受託事業者

- (1) 自社で実施する。

シラバス

シラバス

指定番号 241

商号または名称: 株式会社FAN-CTION

科目番号・科目名	(1)職務の理解				
到達目標	○研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージをもっと実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。				
指導の視点	○研修過程全体(130時間)の構成と各研修科目(10科目)の相互の関連性の全体像をあらかじめイメージできるようにし、学習内容を体系的に整理して知識を効率・効果的に学習できるような素地の形成を促す。 ○視聴覚教材等を工夫するとともに、必要に応じて見学を組み合わせるなど、介護職が働く現場や仕事の内容を、出来るかぎり具体的に理解させる。				
項目番号・項目名	時間数	通学	通信	目標・講義内容・学習課題の概要等	講義内容・演習の実施方法
①多様なサービスの理解	2.0	2.0	0.0	・介護保険による居宅サービス ・介護保険による施設サービス ・介護保険外のサービス	・介護保険による居宅サービスの種類と、サービスが提供される場の特性を理解する。 ・介護保険による施設サービスの種類と、サービスが提供される場の特性を理解する。 ・介護保険外のサービスの種類と、サービスが提供される意義や目的を理解する。
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	4.0	4.0	0.0	・介護サービスを展開する現場の実際 ・介護サービスの提供に至るまでの流れ ・介護過程とチームアプローチ	・各種サービスの内容や利用者像などを通じて、介護職の仕事内容や働く現場を理解する。 ・ケアマネジメントを通じて、介護サービス提供に至るまでの流れを理解する。 ・チームアプローチの必要性と、具体的な連携方法を理解する。
授業時間数合計	6.0	6.0	0.0		

【添付のDVDについて】
 ○第1巻の巻末に添付されているDVDは、第1巻第1章「職務の理解」の科目内容に相当する視聴覚教材である。研修に先立ち、介護職がどのような場で、どのような利用者に対して、どのようなサービスを提供するのか、具体的なイメージをもつことができるように、実践的な取り組みを紹介する内容になっている。
 ○具体的には、①訪問介護、②通所介護、③認知症対応型共同生活介護、④小規模多機能型居宅介護、⑤介護老人福祉施設、⑥介護老人保健施設、⑦ケアハウス、⑧障害福祉サービスを取り上げている。

科目番号・科目名	(2)介護における尊厳の保持・自立支援				
到達目標	○介護職が、利用者の尊厳ある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点を理解する。				
指導の視点	○具体的な事例を複数示し、利用者およびその家族の要望にそのまま応えること、自立支援・介護予防という考え方に基づいたケアを行うことの違い、自立という概念に対する気づきを促す。 ○具体的な事例を複数示し、利用者の残存機能を効果的に活用しながら自立支援や重度化の防止・遅延化に資するケアへの理解を促す。 ○利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由について考えさせ、尊厳という概念に対する気づきを促す。 ○虐待を受けている高齢者への対応方法についての指導を行い、高齢者虐待に対する理解を促す。				
項目番号・項目名	時間数	通学	通信	目標・講義内容・学習課題の概要等	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
①人権と尊厳を支える介護	4.0	1.0	3.0	・人権と尊厳の保持 ・ICF ・QOL ・ノーマライゼーション ・虐待防止・身体拘束禁止	・介護を必要とする人が有する権利とは何かを学ぶ。 ・介護に関する基本的な視点(ICF、QOL、ノーマライゼーション)について理解する。 ・利用者の権利を擁護するための制度の種類や内容について理解する。
②自立に向けた介護	3.0	1.0	2.0	・自立支援 ・介護予防	・介護における自立とは何かを学ぶ。 ・「その人らしさ」を尊重するために、介護職として配慮すべき点について理解する。 ・介護の予防の考え方について理解する。
③人権啓発に係る基礎知識	2.0	2.0	0.0	・人権の基本的な知識	・人権について ・人権の取り組み ・身近な人権のこと
授業時間数合計	9.0	4.0	5.0		

科目番号・科目名	(3)介護の基本				
到達目標	○介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解する。 ○介護を必要としている人の個性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援をとることができる。				
指導の視点	○可能な限り具体例を示す等の工夫を行い、介護職に求められる専門性に対する理解を促す。 ○介護におけるリスクに気づき、緊急対応の重要性を理解するとともに、場合によってはそれに一人では対応しようとせず、サービス提供責任者や医療職と連携することが重要であると実感できるよう促す。				
項目番号・項目名	時間数	通学	通信	目標・講義内容・学習課題の概要等	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	2.0	1.0	1.0	・介護環境の特徴 ・介護の専門性 ・介護にかかわる職種	・介護環境の特徴(施設と在宅との違い、地域包括ケアの方向性など)を学ぶ。 ・介護の専門性について考え、専門職に求められるものが何かを学ぶ。 ・多職種連携の目的を学び、利用者を支援するさまざまな専門職について理解する。
②介護職の職業倫理	1.0	0.5	0.5	・専門職の倫理の意義 ・介護福祉士の倫理	・介護職がもつべき職業倫理を学ぶ。 ・日本介護福祉士会倫理綱領を参考に介護職にかかわる倫理綱領を理解する。
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.5	1.0	0.5	・介護における安全の確保 ・事故予防、安全対策 ・感染対策	・利用者の生活を守る技術としてのリスクマネジメントの視点を学ぶ。 ・利用者を取り巻く介護チームで安全な生活を守るしくみについて学ぶ。
④介護職の安全	1.5	0.5	1.0	・介護職の心身の健康管理 ・感染予防	・介護の特徴をふまえて、介護職自身の健康管理の必要性について学ぶ。 ・介護職に起こりやすいところからの病気や障害について学ぶ。 ・介護職自身の健康管理の方法(病気や障害の予防と対策)について学ぶ。
授業時間数合計	6.0	3.0	3.0		

3/11

科目番号・科目名	(4)介護・福祉サービスの理解と医療との連携				
到達目標	○介護保険制度や障害者自立支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを習得する。				
指導の視点	○介護保険制度・障害者自立支援制度を担う一員として、介護保険制度の理念に対する理解を徹底する。 ○利用者の生活を中心に考えるという視点を共有し、その生活を支援するための介護保険制度、障害者自立支援制度、その他の制度のサービスの位置づけや、代表的なサービスの理解を促す。				
項目番号・項目名	時間数	通学	通信	目標・講義内容・学習課題の概要等	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
①介護保険制度	4.0	0.5	3.5	・介護保険制度創設の背景および目的、動向 ・介護保険制度のしくみの基礎的理解 ・制度を支える財源、組織・団体の機能と役割	・介護保険制度が創設された背景を理解したうえで、制度の目的と動向について学ぶ。 ・介護保険制度の基本的なしくみを理解する。 ・介護保険制度にかかわる組織とその役割を理解するとともに、制度の財政について学ぶ。
②医療との連携とリハビリテーション	2.0	0.5	1.5	・医行為と介護 ・訪問看護 ・施設における看護と介護の役割・連携 ・リハビリテーション	・介護職と医療行為の実情と経過について理解する。 ・在宅および施設における介護職と看護職の役割・連携について理解する。 ・リハビリテーションの理念と考え方について理解する。
③障害者自立支援制度およびその他の制度	3.0	0.5	2.5	・障害者福祉制度の概念 ・障害者自立支援制度のしくみの基礎的理解 ・個人の人権を守る制度の概要	・障害者福祉制度における障害の概念について、その歩みをふまえて学ぶ。 ・障害者自立支援制度の基本的なしくみについて理解する。
授業時間数合計	9.0	1.5	7.5		

4/11

科目番号・科目名	(5)介護におけるコミュニケーション技術				
到達目標	○高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを図ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限のとるべき(とるべきでない)行動例を理解する。				
指導の視点	○利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由について考えさせ、相手の心身機能に合わせた配慮が必要であることへの気づきを促す。 ○チームケアにおける専門職間でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解するとともに、記録等を作成する介護職一人ひとりの理解が必要であることへの気づきを促す。				
項目番号・項目名	時間数	通学	通信	目標・講義内容・学習課題の概要等	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
①介護におけるコミュニケーション	4.0	2.0	2.0	・コミュニケーションの意義、目的、役割 ・コミュニケーションの技法 ・利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ・利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際	・対人援助関係におけるコミュニケーションの意義と目的を理解する。 ・介護におけるコミュニケーションの役割と技法について理解する。 ・事例を通して、利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの実際を理解する。
②介護におけるチームのコミュニケーション	2.0	1.0	1.0	・記録における情報の共有化 ・報告・連絡・相談 ・コミュニケーションを促す環境	・介護における記録の意義と目的を理解し、書き方の留意点などについて学ぶ。 ・チームのコミュニケーションに必要な報告・連絡・相談の意義と目的を理解し、具体的な方法について学ぶ。 ・会議の意義と目的を理解し、具体的な進め方について学ぶ。
授業時間数合計	6.0	3.0	3.0		

5/11

科目番号・科目名	(6)老化の理解				
到達目標	○加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解する。				
指導の視点	○高齢者に多い心身の変化、疾病の症状等について具体例を挙げ、その対応における留意点を説明し、介護において生理的側面の知識を身につけることの必要性への気づきを促す。				
項目番号・項目名	時間数	通学	通信	目標・講義内容・学習課題の概要等	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
①老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴	3.0	1.5	1.5	・老化と老年期 ・老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ・老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響	・老化についての考え方や学説について理解する。 ・老化が及ぼす心理や行動には個人差が大きいことについて理解する。 ・老化とともに社会的環境が心理や行動に与える影響について理解する。 ・多くの側面にわたる身体的老化現象と日常生活への影響について理解する。
②高齢者と健康	3.0	1.5	1.5	・高齢者の症状・疾患の特徴 ・高齢者の疾病と日常生活上の留意点 ・高齢者に多い病気と日常生活上の留意点	・高齢者の多くにみられる症状や訴えがどのような疾病から起こるかなど、その特徴について理解する。 ・高齢者に多い病気の原因や特徴、その病気をかかえる高齢者の生活上の留意点について理解する。
授業時間数合計	6.0	3.0	3.0		

6/11

科目番号・科目名	(7) 認知症の理解				
到達目標	○介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護するときの判断の基準となる原則を理解する。				
指導の視点	○認知症の利用者の心理・行動の実際を示す等により、認知症の利用者の心理・行動を実感できるよう工夫し、介護において認知症を理解することの必要性への気づきを促す。 ○複数の具体的なケースを示し、認知症の利用者の介護における原則についての理解を促す。				
項目番号・項目名	時間数	通学	通信	目標・講義内容・学習課題の概要等	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
① 認知症を取り巻く状況	1.0	0.5	0.5	・認知症のケアの理念 ・認知症ケアの視点	・「認知症を中心としたケア」から、「その人を中心としたケア」に転換することの意義を理解する。 ・問題視するのではなく、人として接することを理解する。 ・できないことではなく、できることをみて支援することを理解する。
② 医学的側面からみた認知症の基礎と健康管理	2.0	1.0	1.0	・認知症の概念 ・認知症の原因疾患とその病態 ・原因疾患別ケアのポイント ・健康管理	・老化のしくみと脳の変化を学び、認知症の原因を理解する。 ・認知症に類似した症状をもつ疾病について学ぶ。 ・アルツハイマー型認知症、血管性認知症をはじめとした認知症の主な原因疾患の病態、症状について学ぶ。
③ 認知症に伴うこととからだの変化と日常生活	2.0	1.0	1.0	・認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ・認知症の人への対応	・認知症の症状を知ることによって、どのようなケアが必要かを学ぶ。 ・認知症の人の行動と環境との関係について理解する。 ・病気の症状があっても、その人の尊厳を守る視点をもつことについて理解する。
④ 家族への支援	1.0	0.5	0.5	・家族へのレスパイトケア ・家族へのエンパワメント	・家族介護者の介護の大変さについて理解し、レスパイトの重要性を学ぶ。 ・家族とは助けるだけの存在ではなく、ともに認知症の人を支えていくパートナーであることを学ぶ。
授業時間数合計	6.0	3.0	3.0		

7/11

科目番号・科目名	(8) 障害の理解				
到達目標	○障害の概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解する。				
指導の視点	○介護において障害の概念とICFを理解しておくことの必要性の理解を促す。 ○高齢者の介護との違いを念頭におきながら、それぞれの障害の特性と介護上の留意点に対する理解を促す。				
項目番号・項目名	時間数	通学	通信	目標・講義内容・学習課題の概要等	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
① 障害の基礎的理解	0.5	0.5	0.0	・障害の概念とICF ・障害者福祉の基本理念	・「障害とはどういうものなのか」という考え方を学ぶ。 ・ICF(国際生活機能分類)に基づきながら、「障害」の概念について理解する。 ・障害者福祉の基本理念(ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョン)について理解する。
② 障害の医学的側面、生活障害などの基礎知識	2.0	0.5	1.5	・身体障害 ・知的障害 ・精神障害 ・発達障害 ・難病	・障害の原因となる主な疾患を理解する。 ・障害に伴う心理的影響、障害の受容を理解する。 ・障害のある人の生活を理解し、介護上の留意点について学ぶ。
③ 家族の心理、かわり支援の理解	0.5	0.5	0.0	・家族の理解と障害の受容支援 ・介護負担の軽減	・家族支援は、家族介護の肩代わり支援だけではないことを学ぶ。 ・わが国に求められるレスパイトサービスの課題を学ぶ。
授業時間数合計	3.0	1.5	1.5		

8/11

科目番号・科目名	(9)こころとからだのしくみと生活支援技術				
到達目標	○介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 ○尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。				
指導の視点	○介護実践に必要なこころとからだのしくみの基礎的な知識と介護の流れを示しながら、視聴覚教材や模型を使って理解させ、具体的な身体の各部の名称や機能等が列挙できるように促す。 ○サービスの提供例の紹介等を活用し、利用者にとっての生活の充足を提供しつつ不満を感じさせない技術が必要となることへの理解を促す。 ○例えば『食事の介護技術』は「食事という生活の支援」と捉え、その生活を支える技術の根拠を身近に理解できるように促す。さらに、その利用者が満足する食事が提供したいと思う意欲を引き出す。他の生活場面でも同様とする。 ○「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることができるように、身近な素材からの気づきを促す。				
項目番号・項目名	時間数	通学	通信	目標・講義内容・学習課題の概要等	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
【介護に関する基礎的理解】					
①介護の基本的な考え方	2.0	1.0	1.0	・理論に基づく介護 ・法的根拠に基づく介護	・「介護」が理論的にどのような変遷をたどってきたのかについて理解する。 ・「介護」が法的にどのような変遷をたどってきたのかについて理解する。
②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3.0	2.0	1.0	・学習と記憶に関する基礎知識 ・感情と意欲に関する基礎知識 ・自己概念と生きがい ・老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因	・学習と記憶に関する基礎的な知識を理解する。 ・感情と意欲に関する基礎的な知識を理解する。 ・自己概念と生きがい、老化や障害の受容に関する基礎的な知識を理解する。
③介護に関するからだのしくみの基礎知識	6.0	5.0	1.0	・生命の維持・恒常のしくみ ・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ・骨・関節・筋に関する基礎知識とボディメカニクスの活用 ・中枢神経と体性神経に関する基礎知識 ・自律神経と内部器官に関する基礎知識	・生命の維持・恒常のしくみを理解する。 ・骨や関節など、からだの動きのメカニズムを理解する。 ・神経の種類と、そのはたらきを理解する。 ・眼や耳、心臓をはじめとするからだの器官のはたらきを理解する。
【自立に向けた介護の展開】					
④生活と家事	2.0	1.0	1.0	・生活と家事の理解 ・家事援助に関する基礎知識と生活支援	・生活を継続していくための家事の重要性について学ぶ。 ・家事援助(調理、洗濯、掃除などの援助)は利用者にとってどのような意味があるのかを理解する。 ・家事援助とは何かについて具体的に理解する。
⑤快適な居住環境整備と介護	2.0	1.0	1.0	・快適な居住環境に関する基礎知識 ・高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具の活用	・安心して快適に生活するために必要な環境の整備とは何かについて学ぶ。 ・住まいにおける安心・快適な室内環境の確保の仕方について学ぶ。 ・高齢者や障害のある人が生活するなかで、住宅改修や福祉用具を利用する意味や視点を学ぶ。
⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	8.0	7.0	1.0	・整容に関する基礎知識 ・整容の支援技術	・整容の必要性と、整容に関連するこころとからだのしくみを理解する。 ・利用者本人の力を活用し、整容の介護を行うための技術を身につける。

9/11

⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	8.0	7.0	1.0	・移動・移乗に関する基礎知識 ・移動・移乗に関する福祉用具とその活用方法 ・利用者・介助者にとって負担の少ない移動・移乗の支援 ・移動・移乗を阻害する要因の理解とその支援方法 ・移動と社会参加の留意点と支援	・移動・移乗の必要性と、移動・移乗に関連するこころとからだのしくみを理解する。 ・利用者本人の力を活用し、移動・移乗の介護を行うための技術を身につける。 ・心身機能の低下が移動・移乗に及ぼす影響について理解する。
⑧食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	8.0	7.0	1.0	・食事に関する基礎知識 ・食事環境の整備と食事に関連する用具の活用方法 ・楽しい食事を阻害する要因の理解と支援方法 ・食事と社会参加の留意点と支援	・食事の必要性と、食事に関連するこころとからだのしくみを理解する。 ・利用者本人の力を活用し、食事の介護を行うための技術を身につける。 ・心身機能の低下が食事に及ぼす影響について理解する。
⑨入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	8.0	7.0	1.0	・入浴・清潔保持に関連する基礎知識 ・入浴・清潔保持に関連する用具の活用方法 ・楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法	・入浴・清潔保持がもたらす心身への効果と、入浴に関連するこころとからだのしくみを理解する。 ・利用者本人の力を活用し、楽しい入浴の介護を行うための技術を身につける。 ・心身機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響について理解する。
⑩排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	8.0	7.0	1.0	・排泄に関する基礎知識 ・排泄環境の整備と関連する用具の活用方法 ・爽快な排泄を阻害する要因の理解と支援方法	・排泄の必要性と、排泄に関連するこころとからだのしくみを理解する。 ・利用者本人の力を活用し、気持ちのよい排泄の介護を行うための技術を身につける。 ・心身機能の低下が排泄に及ぼす影響について理解する。
⑪睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6.0	5.0	1.0	・睡眠に関する基礎知識 ・睡眠環境の整備と関連する用具の活用方法 ・快い睡眠を阻害する要因の理解と支援方法	・睡眠の必要性と、睡眠に関連するこころとからだのしくみを理解する。 ・心地よい睡眠を支援するための知識と技術を身につける。 ・心身機能の低下が睡眠に及ぼす影響について理解する。
⑫死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護	3.0	2.0	1.0	・終末期に関する基礎知識 ・生から死への過程 ・「死」に向き合うこころの理解 ・苦痛の少ない死への支援	・終末期のとらえ方を学ぶ。 ・終末期から死までの身体機能の変化について理解し、状況に合わせた対応を学ぶ。 ・死に直面したときの人の心理状況について理解し、こころの変化の受け止め方を学ぶ。
【生活支援技術演習】					
⑬介護課程の基礎的理解	5.0	5.0	0.0		
⑭総合生活支援技術演習	6.0	6.0	0.0		
授業時間数合計	75.0	63.0	12.0		

【添付のDVDについて】

○第2巻の巻末に添付されているDVDは、第2巻の主要テーマである「介護職として身につけていなければならない生活支援技術」について、映像ともに詳説する視聴覚教材である。研修時に視聴することで、「尊厳の保持」「利用者主体」「自立支援」「安全」といった生活支援技術を駆使する際の前提となる基本理念を理解する。併せて、利用者個々の状況に合わせた技術の展開、自立支援と安全を両立させるための方法、そしてその技術を扱う根拠を学ぶ。
○具体的には、①感染の予防、②ボディメカニクスの応用、③体位と姿勢の変換の介助、④移動と移乗の介助、⑤食事の介助、⑥口腔ケアの介助、⑦排泄の介助、⑧衣服着脱の介助、⑨入浴と清潔保持の介助、⑩整容の介助、⑪ベッドメイキングの各場面を取り上げ、よい例と悪い例の比較もふまえながら、「なぜそのような方法で行うのか」という各技術の根拠とポイントを解説していく。

科目番号・科目名	(10) 振り返り				
到達目標	研修全体を振り返り、研修を通して学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識を図る。				
指導の視点	研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを言語化させたいと、介護の要点について再確認を促す。				
項目番号・項目名	時間数	通学	通信	目標・講義内容・学習課題の概要等	講義内容・演習の実施方法
	2.0	2.0	0.0	研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを言語化させたいと、介護の要点について再確認を促す。	研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを個々でまとめ、発表、共有する。
	2.0	2.0	0.0	修了後も継続的に学習することを前提に、介護職が身につけるべき知識や技術の体系を再掲、何を学習すべきかが理解できるよう促す。	研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事例を紹介。
授業時間数合計	4.0	4.0	0.0		

学則

(別添 2 - 1)

学 則

① 商号又は名称	株式会社FAN-CTION
② 研修事業の名称	株式会社FAN-CTION 介護・看護・障がい・保育 求人支援センター 寺田町校 介護員養成研修（介護職員初任者研修課程）
③ 研修の種類	介護保険法施行令に基づく介護員養成研修 (介護職員初任者研修課程)
④ 研修課程及び 学習形式	介護職員初任者研修課程 ・通学形式 ・通信形式（通信学習実施計画書（別添 2 - 1 0）を参照。）
④ 事業者指定番号	2 4 1
⑤ 開講の目的	介護に対する適切な知識と技能をそなえた介護職員を育成し、もって地域福祉に貢献することを目的とする。
⑦ 講義・演習室 (住所も記載)	【講義】 大阪市天王寺区大道 5 丁目 7 番 4 号 SK アカデミービル 2 階 セミナールーム 【演習】 大阪市生野区勝山南 1 丁目 1 7 番 4 3 号 特別養護老人ホーム夢の箱勝山 地域交流スペース
⑧ 実習施設	1 <input type="checkbox"/> 実施しない 2 <input type="checkbox"/> 実施する（実習施設一覧表（別添 2 - 7）を参照。）
⑨ 講師の氏名及び 担当科目	講師一覧表（別添 2 - 3）を参照。
⑩ 使用テキスト	中央法規 介護職員初任者研修テキスト 第 1 巻・第 2 巻
⑪ シラバス	シラバス（別添 2 - 2）を参照。

⑫受講資格	<ul style="list-style-type: none"> ・面接授業を受講可能な大阪府及び近隣県在住、在勤等でスクーリングに参加可能な方。 ・介護職員として介護サービスに従事しようとする方、または従事している方。 ・ご家族の介護のために研修を必要としている方。 ・日本語の読み書き、聞き取りに問題なく授業を受けられる方。(テキスト・授業・筆記試験は全て日本語にて実施) ・講義及び演習授業のすべての過程を自分一人の力で受講・遂行することが可能な方。 <p>定員 20名</p>
⑬広告の方法	<p>一般公募する。基本的に自社のホームページで募集広告を掲載。自社ホームページからのエントリー、もしくはフリーダイヤルから電話でのエントリーをいただき、手続きを行う。</p>
⑭情報開示の方法	<p>下記ホームページにおいて情報開示する。 ホームページアドレス：https://fan-ction.com/</p>
⑮受講手続き及び本人確認の方法 (応募者多数の場合の対応方法を含む)	<p>自社ホームページよりエントリーフォームを入力して頂き各コース期日までに申し込む。ただし定員に達した時点で申込受付は終了する。</p> <p>申込受付を確認したあと、受講料支払書類及び教材を郵送する。受講料のお支払い書類を受け取った受講者は指定の期日までに受講料を納入する。</p> <p>本人確認の方法：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 戸籍謄本、戸籍抄本もしくは住民票、 2) 住民基本台帳カード 3) 在留カード等 4) 健康保険証 5) 運転免許証 6) パスポート 7) 年金手帳 8) 運転免許以外の国家資格を有するものについてはその免許証又は登録証 <p>初回開始時に1～8いずれかの書類の写しを鄭州を求め、当校にて厳重に保管を行う。</p>
⑯受講料及び受講料支払方法	<p>受講料：39,600円(テキスト代、消費税含む)</p> <p>受講料支払方法：</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 現金で窓口での支払い ② 振込にて入金 <p>規定期日までに下記口座に振り込んで頂く。</p> <p>大阪商工信用金庫 生野支店 普通口座 No.0310392</p> <p>カ) ファンクション</p> <p>※但し振込手数料は受講生負担とする。</p>

⑰ 解約条件及び返金の有無	<p>受講生からのキャンセル： 開講の7日前までは、全額返金。 6日前～前日テキスト代（5,500円税込み）を除く受講料の返金。 当日以降のキャンセルは返金なしとする。</p> <p>弊社からのキャンセル： 応募者が5名に満たなかった場合、次回以降開催の研修日程に振替をする場合がある。</p>
⑱ 受講者の個人情報取扱	<p>個人情報保護規程策定の有無 <input checked="" type="checkbox"/>有・無</p> <p>事業実施により知り得た受講者の個人情報は受講にかかる諸業務や、統計調査にのみ使用しמידらに他人に知らせたり不当な目的に使用しない。</p> <p>なお、修了者は大阪府の管理する修了者名簿に記載される。</p>
⑲ 研修修了の認定方法	<p>認定方法：修了を認定した者には修了証明書を交付する。</p> <p>研修の修了年限：8ヶ月</p> <p>修了評価方法：(別添2-9)を参照。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結果発表後、当日中に50分間の補習を実施、自宅での復讐時間を経て、後日(予備日)に再試験を実施する。 ・原則として、合格するまで再試験を実施する。再試験の結果不合格であった者には、修了評価者が個別指導を行い、改めて再試験を実施する。 <p>当日50分個別補習費用2,200円(税込) / 1時間</p> <p>再評価試験：無料</p>
⑳ 補講の方法及び取扱	<p>研修の一部を欠席した者は、補講を行う事により当該科目を履修したものとみなす。</p> <p>補講の方法:別コースの当該授業を受講する。受講中に別コースが無い場合、個別対応で実施する。</p> <p>補講に要する費用：2,200円(税込) / 1時間</p> <p>個別対応による補講も同一金額とする。</p>
㉑ 科目免除の取扱	<p>大阪府介護職員初任者研修実施要領の規定のとおり取り扱う。ただし、受講料の減免措置はない。</p> <p>介護等の実務経験が1年以上の者が受講を希望した場合において、受講申請時にその証明書を提出できる者は、「(1)職務の理解」の科目を免除する。</p>
㉒ 受講中の事故等についての対応	<p>受講中に生じた事故については講師にて緊急対応し、必要に応じて研修責任者が対応し家族連絡および医療機関等への連絡や病院受診等の必要な措置を講じる。</p> <p>なお研修受講中の事故は賠償責任保険にて対応する。(研修機関が法律上の賠償責任を負う場合に限る) 通学方法は公共交通機関又は徒歩に限る。これ以外の方法での通学の際の事故等については責任を負わない。</p>

②③ 研修責任者名、所属名及び役職	氏名：成田 雅一 所属名：株式会社 FAN-CTION 役職：
②④ 課程編成責任者名、所属名及び役職	氏名：亀田 瑞希 所属名：株式会社 FAN-CTION 役職：
②⑤ 苦情等相談担当者名、所属名、役職及び連絡先	氏名：亀田 瑞希 所属名：株式会社 FAN-CTION 役職：
②⑥ 研修事務担当者名、所属名及び連絡先	氏名：亀田 瑞希 所属名：株式会社 FAN-CTION 役職：
②⑦ 情報開示責任者名、所属名、役職及び連絡先	氏名：亀田 瑞希 所属名：株式会社 FAN-CTION 役職： 連絡先：06-6776-7667
②⑧ 修了証明書を亡失・き損した場合の取扱い	「養成研修修了証明書等の亡失・き損時の取り扱いに関する要領」に基づき証明書を交付する。 ・証明書交付に係る費用：2,200円（税込）
②⑨ その他必要な事項	<p>・受講の取り消し及び除籍について</p> <p>次に該当する者は受講の取り消しもしくは除籍とすることができる。受講料の返金は原則行わない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学習意欲が著しく欠け修了の見込みがないと判断出来る者。 2) 研修の秩序を乱しその他受講者としての本分に反した者。 3) 受講者自ら受講継続の意思のないことを申し出た者。 4) 大阪府介護職員初任者研修実施要項に規定する履修期間8ヶ月以内（ただし病気等やむを得ない理由による場合は1年6ヶ月）を過ぎた者。 5) 受講申し込み後支払期日までに受講料の納入がなく、その後も支払い意思または支払能力がないと判断される者。 <p>・遅参の取扱い：</p> <p>理由の如何に関わらず研修開始から10分以上遅刻した場合には欠席とする。やむを得ず欠席をする場合には、必ず電話等により届け出ることとする。授業開始前の出席確認時点で出席が確認できなかった場合は遅参扱いとし欠席とする。その際、当事業所が設定する日程において補習を受けなければならない。</p>

研修スケジュール

介護職員初任者研修 《2024年度 開講日程》

定員：20名

	カリキュラム	時間	【8月(短期)コース】 週2回通学	【11月コース】 週1回通学
開講日	開講式	9:30~10:30		
1日目 ☆	職務の理解(6時間)	10:40~12:40	8月7日(水)	11月21日(木)
		13:30~17:40		
2日目	介護における尊厳の保持・自立支援(4時間)	9:30~14:30	8月11日(日)	11月28日(木)
	介護の基本(3時間)	14:30~17:40		
3日目	介護・福祉サービスの理解と医療との連携(1.5時間)	9:30~11:00	8月14日(水)	12月5日(木)
	介護におけるコミュニケーション技術(3時間)	11:10~15:00		
	認知症の理解①(2時間)	15:10~17:10		
4日目	認知症の理解②(1時間)	9:30~10:30	8月18日(日)	12月12日(木)
	障害の理解(1.5時間)	10:40~12:10		
	老化の理解(3時間)	13:00~16:10		
	介護の基本的な考え方(1時間)	16:20~17:20		
5日目	介護に関するところのしぐみの基礎的理解(2時間)	9:30~11:30	8月25日(日)	12月19日(木)
	介護に関するからだのしぐみの基礎的理解(5時間)	11:40~12:40		
		13:30~15:30 15:40~17:40		
6日目	生活と家事/快適な居住環境整備と介護(2時間)	9:30~11:30	8月28日(水)	12月26日(木)
	睡眠に関したところとからだのしぐみと自立に向けた介護(5時間)	11:40~12:40		
		13:30~15:30 15:40~17:40		
7日目	整容に関連したところとからだのしぐみと自立に向けた介護(7時間)	9:30~17:40	9月1日(日)	1月9日(木)
8日目	移動・移乗に関連したところとからだのしぐみと自立に向けた介護(7時間)	9:30~17:40	9月4日(水)	1月16日(木)
9日目	食事に関連したところとからだのしぐみ自立に向けた介護(7時間)	9:30~17:40	9月8日(日)	1月23日(木)
10日目	排泄に関連したところとからだのしぐみと自立に向けた介護(7時間)	9:30~17:40	9月11日(水)	1月30日(木)
11日目	入浴、清潔保持に関連したところとからだのしぐみと自立に向けた介護(7時間)	9:30~17:40	9月15日(日)	2月6日(木)
12日目	死にゆく人に関連したところとからだのしぐみと終末期介護(2時間)	9:30~11:30	9月22日(日)	2月13日(木)
	介護過程の基礎的理解(5時間)	11:40~12:40		
		13:30~15:30 15:40~17:40		
13日目	総合生活支援技術演習(6時間)	9:30~16:40	9月25日(水)	2月20日(木)
14日目 ☆	振り返り(2時間)	9:30~11:30	9月29日(日)	2月27日(木)
	就業への備えと研修終了後における実例(2時間)	11:40~12:40 13:30~14:30		
	修了評価試験(1時間)	14:40~15:40		
	閉講式・修了証授与	16:00~16:30		

研修施設・設備

(別添2-6)

実技演習使用備品一覧表

	メーカー名、商品名、品番等	台数	購入・レンタル・その他の別	合計数
①ベッド	パラマウントベッド「楽匠」	3	購入・レンタル・ <input checked="" type="checkbox"/> その他 (特養夢の箱勝山所有物品)	3台
	3K01453500A2		購入・レンタル・その他 ()	
			購入・レンタル・その他 ()	
②車いす	松永製作所AR-301(40)	3	購入・レンタル・ <input checked="" type="checkbox"/> その他 (特養夢の箱勝山所有物品)	3台
			購入・レンタル・その他 ()	
			購入・レンタル・その他 ()	
③ポータブルトイレ等	アロン化成拡張トイレセレクトR	3	購入・レンタル・ <input checked="" type="checkbox"/> その他 (特養夢の箱勝山所有物品)	3台
	533-865		購入・レンタル・その他 ()	
			購入・レンタル・その他 ()	
④簡易浴槽等			購入・レンタル・その他 ()	
			購入・レンタル・その他 ()	
			購入・レンタル・その他 ()	
⑤その他の消耗備品等	<input checked="" type="checkbox"/> 済 ・ 未			

※①～④の備品については、概ね受講者5～6名に1台準備することが望ましいが、最大8名に1台の割合で準備すること。

※⑤については、演習使用物品等一覧(別紙5)を参考とし、演習に必要な消耗品等を確実に事前準備する体制を整えること。体制が整っている場合は、⑤の欄の「済」に○をつけること。

修了評価方法・評価者・再履修等の基準

修了評価の方法

評価基準作成者： 亀田 瑞希

評価方法及び合格基準	<p>1 出題範囲</p> <p>「(2) 介護における尊厳の保持・自立支援」から 「(9) ところとからだのしくみと生活支援技術」までとする。</p> <p>2 出題形式</p> <p>四肢択一形式とする。</p> <p>3 出題数</p> <p>択一問題30問(全問正解30問)</p> <p>4 合否判定基準</p> <p>18点以上(6割以上)で合格とする。</p> <p>5 不合格になったときの取扱い</p> <ul style="list-style-type: none">結果発表後、当日中に50分間の補講を実施、自宅での復習時間を経て、後日(予備日)に再試験を実施する。 <p>補習料1時間2,000円(税別)再試験料無料</p> <ul style="list-style-type: none">原則として、合格するまで再試験を実施する。 <p>再試験の結果不合格であった者には、修了評価者が個別指導を行い、改めて再試験を実施する。</p> <p>補習料1時間2,000円(税別)再試験料無料</p>
------------	--

年間実施計画書

様式第8号(第7条関係)

令和6年度 介護員養成研修(介護職員初任者研修課程) 年間実施計画書

令和6年4月27日提出

商号又は名称	介護・看護・障がい・保育 求人支援センター 寺田町校			
指定番号	241	提出理由	1 新規提出	
コース数	2		2 コースの追加()	
			3 コースの削除()	
		4	内容の変更()	※開講届を提出したものは、休講届出書で処理すること。

研修事務担当者 前回報告時からの変更【有・無】 (いずれかに○)	
所属名	株式会社 FAN-CTION
氏名	亀田 瑞希
電話	06-6776-7667
ファックス	06-6776-7678
メールアドレス	m.kameda@fan-ction.com

○当該年度に開講予定のコース

コース名	開講		修了		定員	受講料総額	実施場所(市・区)	最寄駅		通学	通信	公募	夜間	土日
	年	月	年	月				路線	駅					
介護職員初任者研修 8月(短期)コース	2024	8	2024	9	20	39,600円	大阪市天王寺区	JR大阪環状線	寺田町駅		○			
介護職員初任者研修 11月コース	2024	11	2025	2	20	39,600円	大阪市天王寺区	JR大阪環状線	寺田町駅		○			

※ 4月～翌年3月に実施予定の全てのコースについて記載すること。(前年度以前より継続予定のものを含む。)

※ 実施場所：講義・演習の主な実施場所を記載、**受講料総額：テキスト代・消費税等を含めた総額を記載、**

通学・通信：該当するものに○、公募：一般募集を行うコースに○、

夜間：講義・演習の全日程を18時以降に実施するコースに○、

土日：講義・演習の全日程を土日に実施するコースに「土」「日」「土日」のいずれかを記載。

注) 公募欄に○をしない場合であっても、情報開示の責務は一律に生じる。

電子媒体でも提出すること。

法人財務情報

決 算 報 告 書

(第 13 期)

自 令和 4年 8月 1日
至 令和 5年 7月31日

株式会社 FAN-CTION

大阪市天王寺区大道五丁目7番4号

電話：06 - 6776 - 7667

損 益 計 算 書

自 令和 4年 8月 1日
至 令和 5年 7月31日

株式会社 FAN-CTION

(単位： 円)

科 目	金 額	
【売上高】		
売 上 高	125,405,470	
非 課 税 売 上 高	9,480,710	
売 上 高 合 計		134,886,180
【売上原価】		
期 首 商 品 棚 卸 高	2,437,689	
当 期 商 品 仕 入 高	87,206,195	
非 課 税 仕 入 高	5,252,825	
合 計	94,896,709	
期 末 商 品 棚 卸 高	3,350,842	
売 上 原 価		91,545,867
売 上 総 利 益 金 額		43,340,313
【販売費及び一般管理費】		
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費 合 計		39,512,656
営 業 利 益 金 額		3,827,657
【営業外収益】		
受 取 利 息	53	
受 取 配 当 金	1,000	
雑 収 入	24,000	
営 業 外 収 益 合 計		25,053
【営業外費用】		
支 払 利 息	117,129	
営 業 外 費 用 合 計		117,129
経 常 利 益 金 額		3,735,581
【特別損失】		
前 期 損 益 修 正 損	728,650	
特 別 損 失 合 計		728,650
税 引 前 当 期 純 利 益 金 額		3,006,931
法 人 税 等		587,600
当 期 純 利 益 金 額		2,419,331